

# 祈りよ とどけ

## 核兵器のない世界へ



発行者  
**日本非核宣言自治体協議会**  
(にほんひかくせんげんじちたいきょうぎかい)  
 〒852-8117  
 長崎県長崎市平野町7番8号  
 長崎市平和推進課内  
 電話 095-844-9923  
 FAX 095-846-5170  
 E-mail info@nucfreejapan.com  
 ホームページ  
<http://www.nucfreejapan.com>

2010年  
**8月9日(月)**  
**NAGASAKI PEACE  
 TIMES**

### 世代を越えて受け継ぐ平和への思い



爆心地の方角に黙とうする親子記者と被爆者(国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館)

平成22年8月9日、長崎原爆の日(65回目)の節目を迎えました。  
 今年も全国から集まったおやこ記者9組18名は、長崎の平和への取り組みを全国に広め、その思いを継承するために取材活動を積極的に行いました。

### 皆に知らせるために

#### 被爆者代表の内田保信さん

被爆者代表として平和祈念式典で平和への誓いを話した内田保信さんを取材しました。長崎のまちは戦争前後で何人も変わらないが、長崎市民の心に原爆の痛みが刻まれました。内田さんは核廃絶が必ず実現すると確信しています。

### 世界中の人が折る千羽ヅル

#### 純心女子高等学校が歌う

私は純心女子高等学校に行きました。同校は平和祈念式典で毎年「千羽鶴」を歌っています。私は音楽部の皆さんと千羽鶴のことに話しました。音楽部の千羽鶴は一人ではなく、長崎の人達や世界中の人達で折っているんだと思います」と話してくれました。



純心女子高等学校音楽部の皆さん

私は、世界中の人達が千羽鶴を折って戦争が無くなれば、世界中の皆が安心して穏やかな生活ができると思います。

【橋本侑実・卓弥記者】



平和への誓いを読み上げる内田保信さん

長崎以降、核兵器が使用されていらないという事を「我々の勝利」と考えています。内田さんは語り部活動を、被爆当日の夜に亡くなった親友の中村さんの思いと一緒に話していることを話してくれました。

私は、原爆の恐ろしさと原爆が無くなって欲しいことを話すことが出来るようになってきました。まずはそれを友達に話したいです。

【橋本侑実・卓弥記者】



### とどけ メッセージ!

ことばでつなぐ平和の輪  
 国際原子力機関(IAEA)の事務局長、天野之弥さんに話を聞きました。

天野さんは、いつもウィーンで仕事をしています。平和祈念式典に出席するため長崎を訪れました。

天野さんの仕事は、核兵器が広まらないようにすること、原子力が有効に使われるようにすることです。日本人として初めて事務局長になれて、とても嬉しかったそうです。



IAEA事務局長 天野之弥さん

「平和のためにほくたちができることは、好きなことをみつけて頑張ることだ」と話してくれました。そして「平和のために人の意見に耳を傾けよう」とのメッセージをいただきました。

ほくも、友達の話をよく聞いて、みんなが仲間になれるように頑張りたいです。

【中小原一帆・治子記者】





インタビューをうける石川成幸さん(右)

駐日ベネズエラ・ボリバル共和国特命全権大使の石川成幸、コロナえりか夫妻にインタビューしました。ベネズエラを含む南米諸国が核のないゾーンにすることを約束したと聞き、すごいなと思いました。

奥様のえりかさんは平和のために全国で歌っているそうです。えりかさんの歌は、力強くホールに響いていました。原爆で亡くなつ

# 広がれ!! 核のないゾーン

## 届け、いのりの歌



原爆犠牲者の慰霊のための献水(平和祈念式典)



石川成幸、コロナえりか(右端)夫妻と一緒に

た方々の心にも届いたと思うし、これから平和な世界を作っていく私達の心にも届きました。

私は、成幸さんとえりかさんのように少しでも戦争のない世界を作ることに関与に立つことをしたいです。

「本田陽向子・静江記者」

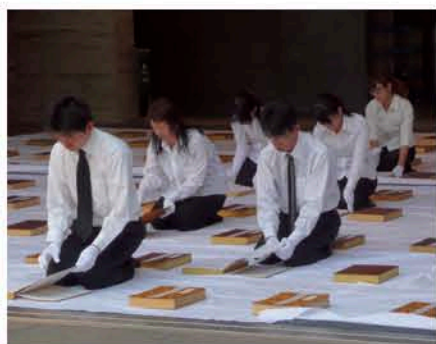


谷川正潤さん(右)

# 次世代へのバトン

## 記帳への思い

自らも被爆者であり原爆死没者名簿への筆耕作業をされている谷川正潤さんに取材しました。どのような思いで筆耕作業をなさっているのか聞いたところ、「冥福を祈りながら戦争のない地球・核のない世界を思いながら記帳している。」と答えてくれました。また、戦争の悲しさや残こくさを強調され、絶対にあつてはならないと話してくれました。お話を聞いて戦争の怖



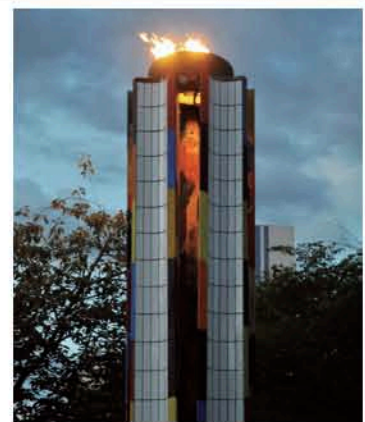
原爆死没者名簿風通しの様子(5月)

さや核兵器の恐ろしさを改めて知ることができました。次の世代へ伝える事の重要性を何度も谷川さんが話されていたので、そのバトンを渡されたらと思うと、平和活動を頑張りたいです。

「加藤詩穂・純子記者」

長崎市を最後の被爆地とする「誓いの火維持会」の宮本圭子さんと、宮澤喜代志さんに話を伺った。

1983年、ギリシヤから「できるだけ燃やし続けたい」という言葉と共



ナガサキ誓いの火

高すぎるということでも半分は縮められたことでもあった。さらに最近では財政難という問題も抱えている。

そんな宮本さんらであるが、「形あるものはいつか壊れるが、この想いは壊れる

# 今も燃え続く「誓いの火」

に、聖火が会に贈られた。その責任を感じる宮本さんは、多くの苦難を乗り越えてきた。過去、オリンピック委員会に聖火の目的外使用だと、反対されたこともあった。灯台が

「佐藤沙綾・新太郎記者」

「ことは無い」と笑顔で語る。炎は消えない。



宮本圭子さん(左)と宮澤喜代志さん(右)

## 戦争をなくすためにはどうしたらよいですか？



大阪府吹田市から来た富久保冨子さん ●矢野喜久恵・祐子記者



平和のために共に立ち上がりましょうと語るペーターさん ●橋本夏姫・由紀子記者



東京都八王子市から来た田尻真理子さん ●佐藤沙綾・新太郎記者



長崎ヒバクシャ医療国際協会の招きで長崎に来た、医療専門家の皆さん ●佐藤沙綾・新太郎記者

9日、65回目の平和祈念式典が行われた平和公園で、参列した皆さんにインタビューをしました。







# 未来のためにできること



9日、長崎市立銭座小学校で平和祈念集会が開かれました。そこで講演された長崎北高校3年生の林田光弘さんと、銭座小5年生の山本竜輔さんの話を聞きました。

林田さんは、銭座小学校の卒業生で、高校生一人署名活動と高校生平和大使を通して平和の活動に取り組んでいます。山本さんは、平和についての発表の中で、暴力ではなく、話し合いで解決する事が大切だと話していました。林田さんは、山本さんをはじめ後輩達に平和についての自分の思いを伝えていました。

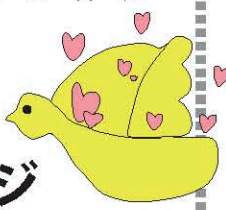
私は今回の話



9日、長崎市立淵中学校で平和祈念式典が行われました。まず各学年の発表があり、ラジオを聴きながら11時2分には全員で黙祷しました。その後、平和委員の小倉さん、柴田さん、篠原さんに取材しました。秋田ではこのような活動はないので、なぜこの平和委員活動を行っているのか聞いたところ、「淵中学校は被爆校なので、平和を広めていきたいから」と話してくれました。また、毎年8月9日が登校日である理由を聞いたら、「長崎独自のことだが、当たり前のことだと思っっています」と答えてくれました。

私は長崎の子供が、小さい頃から平和について学ぶ機会が多い事

## 被爆校の願い 淵中学校からのメッセージ



長崎市立淵中学校の平和委員のみなさん

を知りました。取材を通して、人と人が仲良くする事が平和への一番の近道だと思いました。

「加藤詩穂・純子記者」

## 伝える事が平和への一歩 銭座小学校の平和祈念集会を通して



長崎市立銭座小学校の平和祈念集会

を聞いて、教えてもらった事を地元に戻って一人でも多くの人に伝える事が大切だと思いました。

「柏木巴路・由美記者」



金村公一准教授

9日「私たちが伝える被爆体験」のDVDを作った長崎県立大学シーボルト校の金村公一准教授に話をききました。DVDでは、被爆後、同じ市民に差別されたという吉田勝二さんの経験を紙しぼいにして広く伝えようとしている



高校生1万人署名活動

9日雨、今年も平和への想いを熱くする高校生の夏がやってきた。青木政憲(南山学園高校2年)さん達は、「微力だけど無力じゃない!!」と熱く平和を訴える。かつて、「こんなことをしても

## 世代をこえて伝える平和 「私たちが伝える被爆体験」のDVDをみて

長崎市立桜馬場中学校の生徒の活動を紹介していました。吉田さんはけがをおうだけでなく人との関係までこわされてしまいました。このDVDは全国1797の自治体に送付され、英語字幕の作成も予定されています。

私は、原爆は吉田さんみたいに命だけではなく、人間関係までもこわしてしまうというこわいことを、もつと多くの人に知ってほしいと思います。

差別によって人との関わりをさけていた吉田さんが、紙しぼいを通して世代を超え、中学生と心を通わせている笑顔がとても印象的でした。

「矢野喜久恵・祐子記者」

## 高校生一万人署名活動 微力だけど無力じゃない



平和への想いを熱く語る青木さん

ムダだ」という冷たい批判もあった。それでも、「知ることが興味をかきたたせ、さらなる行動を起させる」と語るのはなぜだろうか。

その理由は、自身が中学生の時の経験が多い。日頃は口が重い被爆者が「後世に伝えて」と、期待してくれていたことからはじまる。発信する義務さえ生まれ、それを仲間にも伝えていくことで、平和への想いは受け継がれていく。

「佐藤沙綾・新太郎記者」







# 平和への思い語り継ごう

## それぞれの地元で戦争を体験した人のお話を聞きました

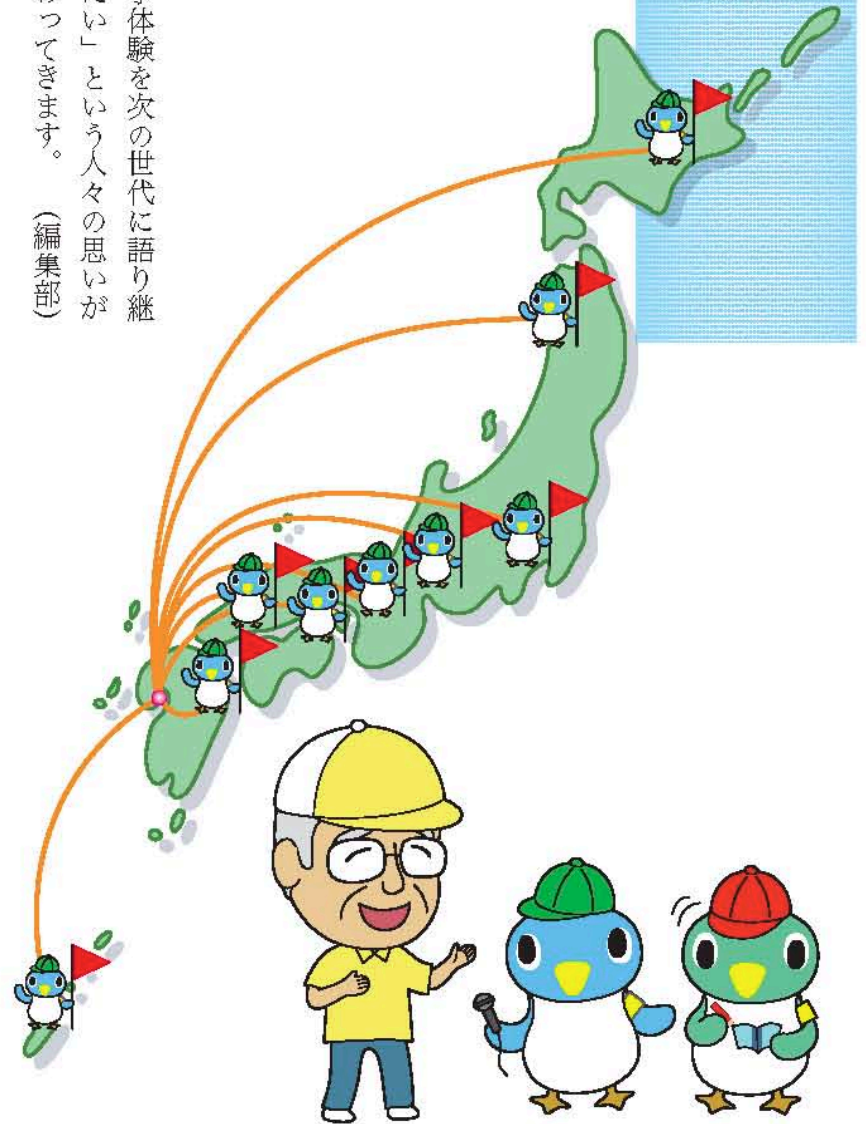
日本非核宣言自治体協議会が発行する『ナガサキ・ピース・タイムズ』おやこ記者新聞は、今年で3号目の発行となりました。今年度は全国から260組の応募があり、地域ブロック別の抽選により9組のおやこ記者が選ばれました。

今年もおやこ記者は8月9

日に行われる長崎市の平和祈念式典を中心とした平和への取り組みや活動を、小学生親子の視点で取材して新聞を作りました。創刊号の取材テーマは「平和の種を全国へ」、第2号が「親子で考える戦争と平和」でしたが、第3号は「継承 次世代に語り継ぐために」というテーマで

取材しました。おやこ記者は長崎で取材する前に、それぞれの地元で戦争を体験した人のお話を聞き、平和への思いを記事にできました。それぞれの記事の内容から、長崎や広島の被爆者のみなさんの思いと同じように、「二度と悲惨な戦争を起こさないために、自分の

戦争体験を次の世代に語り継ぎたい」という人々の思いが伝わってきます。(編集部)



●中部ブロック

愛知県稲沢市  
橋本 侑実さん(3年生)  
卓弥さん



●関東ブロック

東京都西東京市  
柏木 巴路さん(2年生)  
由美さん



●東北ブロック

秋田県秋田市  
加藤 詩穂さん(3年生)  
純子さん

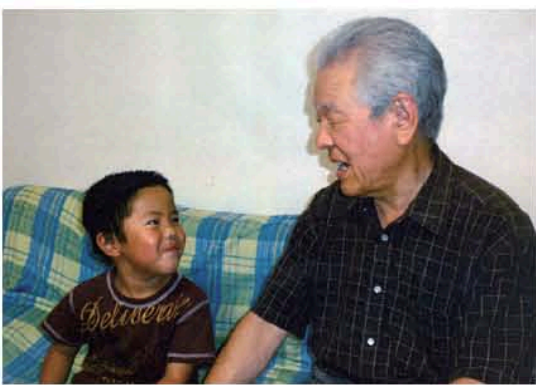


●北海道ブロック

北海道帯広市  
中小原 一帆さん(1年生)  
治子さん

### 北海道帯広市 おじいちゃんに聞いた戦争の話

ぼくのおじいちゃんは、戦争があったとき、小学校1年生でした。



毎日、防空ずきんを持って学校へいき、空襲警報がなると、ずきんをかぶって山中に逃げました。アメリカの飛行機B29が何度も飛んできました。

お弁当は、麦ごはんに梅干でした。おなががすいても、配給の券がないと、食べ物を買えませんでした。

いまのぼくは、毎日楽しく勉強したり、遊んだりできて嬉しです。戦争は、もうしないで欲しいです。

【中小原一帆・治子記者】

### 秋田県秋田市 戦争を語り継ぐ「平和の朗読会」

7月10日、秋田市立立新小学校で女優の浅利香津代さんの「平和の朗読会」があり、取材に行きました。

6日には秋田市立高清水小学校でも朗読会があり、そこでは、土崎空襲の惨劇を描いた絵本「はまなすはみた」を読んでもくれたそうです。浅利さんは「命を傷付けたり、失う事のないよう、人同士が約束を守って暮らし、平和を作っていく事が大切」と語りてくれました。

また終戦をパプアニューギ

ニアで迎えたという佐藤鉄五郎さん(91)に話を伺いました。戦地ではマラリアという病気で亡くなる方が大勢いたと聞きました。私達は、二度と戦争を起こさないようにたくさんの人に伝えていきたいと思いました。

【加藤詩穂・純子記者】



### 東京都西東京市 私のまちの戦争の話を聞いて

西東京市田無駅周辺には柳沢駅周辺に原爆模擬爆弾(パンプキン)が投下されるなど、爆弾による多くの被害があったことをパネル展で知り、「非核・平和を進める西東京市民の会」の方に爆撃を受けた時のお話を伺いました。どのお話も私達が初めて知ることばかりで、65年前に私達の住むまちでも大変悲しいことがあったとわかり、びっくりしました。

戦争を二度と起こしてはいけないと思いました。

【柏木巴路・由美記者】



1トン爆弾の実物大模型

戦争を二度と起こしてはいけないと思いました。

【柏木巴路・由美記者】





●近畿ブロック  
大阪府東大阪市  
福德 涼風さん(5年生)  
安早子さん



●中国ブロック  
広島県府中町  
矢野喜久恵さん(4年生)  
祐子さん



●四国ブロック  
香川県高松市  
橋本 夏姫さん(2年生)  
由紀子さん



●九州ブロック  
大分県別府市  
佐藤 沙綾さん(2年生)  
新太郎さん



●沖縄ブロック  
沖縄県豊見城市  
本田陽向子さん(5年生)  
静江さん

### 愛知県稲沢市 愛知県の戦争



鈴森さん(左端) 杉原さん(右端)

7月9日、戦時中の稲沢市のお話を鈴森章さんと杉原勲さんから伺いました。  
鈴森さんは「お寺に皆が集まって、出兵するお兄さんを万歳で見送ったことを今でもはつきり覚えている」と話してくれました。お二人とも原爆が落ちたことは終戦後に噂で聞いたそうです。「いいことしか知らされない」という杉原さんの言葉に、戦争の怖さを改めて感じました。  
みんながお互いに優しくして戦争がおきないようにすればいいと思います。 [橋本侑実・卓弥記者]

### 大阪府東大阪市 原爆の恐ろしさ



広島で原爆を受けた多久忠男さんと大屋又十さんにお話を伺いました。まず、私が驚いたのは、原爆を受けた時、目玉が飛び出て、おさえていた人がいたということ。そして4〜5日したら、マグロの解体作業の様に人を並べて、一斉に焼いたそうです。最後に戦争を起こさなかったため、感謝の気持ちを持ち、何よりもみんなと仲良くすることだと話してくださいました。戦争は二度と起こしてはならないと改めて思いました。 [福德涼風・安早子記者]

### 広島府中町 3歳のきおく



私の祖母は爆心地から約3kmの片河という所で被爆しました。その日、空がピカリと光り、急いで(祖母の)母と家へ逃げ込むと、玄関のガラスが割れ、タンスが倒れてあんなに怖い経験をした人がたくさん避難して来て、川の水が真っ赤になっていったそうです。3歳なのにその日の事だけはつきり覚えているのは、祖母にとつてよほど強烈な記憶なんだと思います。 [矢野喜久恵・祐子記者]

### 香川県高松市 ひいおばあちゃんの戦争体験



7月3日、自宅(高松市栗林町)でひいおばあちゃんの角トヨ子にお話を聞きました。  
ひいおばあちゃんが15歳のころからせんそうがはじまつたそうです。昭和20年7月4日に高松くうしゅうがありまして。みんなであるいて上天神町の方へそかいました。16人で6カ月生活したそうです。「むぎごはんやふかしいもをたべていた。せんそうはもういや。にどとせんそうをやつてほしくない」とひいおばあちゃんは言っていました。わたしはそんな生かすはがまんできないと思いました。人をふごうにするせんそうはぜつたいにやつてはいけなと思います。 [橋本夏姫・由紀子記者]

### 大分県別府市 若かった頃の思い出 親族の戦争体験を取材して



祖母の佐藤貞子(83歳)



元機関助手で祖父の佐藤英和(81歳)

大分県竹田市の親族に、貴重な戦争体験談を聞きまし。1937年7月7日(日支事変)を境に、学校の先生が「お国のためにならなさい」と急変した話。また、1945年5月5日の朝、近所に墜落した戦闘機の身元確認の話を伺いました。  
私たちが身近にも戦争は存在していたのだと痛感しました。 [佐藤沙綾・新太郎記者]

### 沖縄県豊見城市 ノーモア沖縄



三中学徒之碑



八重岳野戦病院跡

私は祖父の戦争体験を取材しました。祖父は当時12歳、沖縄本島北部本部町八重岳で家族仲良く平和に暮らしていたそうです。ところが、戦争が始まると、爆弾が落ち、家がもえ、たくさん死体がころがっていたそうです。祖父は、戦争の一番おそろしい所は、殺しあいをする事だと語っていました。  
沖縄は、唯一地上戦が行われた場所で、とても悲惨な状況だったそうです。私は、二度と戦争はおこつてほしくないと思います。 [本田陽向子・静江記者]



**事務局だより**  
 今回でおやこ記者新聞は3年目を迎えました。唯一の小学1年生が、国際原子力機関の天野事務局長の取材をするなどがんばってくれました。例年にならぬ暑さの中、平和祈念式典では雨にあうなどハプニングもありましたが、他のみんなも一生懸命ふんとうしてくれました。  
 今年はおやこ記者が、地元でおじいさんやおばあさん達の戦争体験の聞き取りをしてきました。皆さんも、身近な人の戦争体験を聞いてみてはいかがでしょう。取材風景は、ホームページでも公開していきますので、のぞいてみてくださいね。



**「平和」を伝えたい!!**  
 秋田県 加藤詩穂・純子記者  
 長崎を訪れ、中学生の方から被爆者の方まで、たくさんの方の平和への思いを聞く事が出来ました。この貴重な経験を伝えていく事こそ、これから私達が出来る唯一の平和活動なんだと感じました。  
 取材を通して、たくさんの方の親切な方々と出会えた事が、一生の宝になりました。



**緊張したけども勉強になりました!**  
 北海道 中中原一帆・治子記者  
 質問する時は少し緊張しましたが、みんなやさしく答えてくれて嬉しかったです。たくさんの方に話を聞いたり、原爆資料館を見学して、戦争はこわいなと思いました。  
 長崎はとても暑かったです。戦争のことも暑かったですが、勉強してまた来たいです。



**楽しかった長崎**  
 愛知県 橋本侑実・卓弥記者  
 すごく毎日たいへんだったけど、ひびくについてくわしく分かったし楽しかったです。愛知県に帰ったら、友だちに原爆くわさわをつたえて、それがみんなに広まってほしいです。そして、もうせんそうはなくなつてほしいです。



**夏の1ページ**  
 東京都 柏木巴路・由美記者  
 今回の取材で、真剣に平和について取り組んでいる子ども達に感心し、被爆者の方の「2時間では語りつくせない」の言葉は印象的でした。戦争は大変危険な事だと子どもなりに実感できたようです。スタッフの方々にサポートして頂き、充実した素敵な経験に感謝します。



**想いをひきつぐ**  
 広島県 矢野喜久恵・祐子記者  
 取材の時はきんちようして何をいへばいいのかわからなかったけど、おぼせいこうしたのでよかったです。  
 DVDに入っている「平和の原点は人の痛みをわかる心をもつこと」という吉田勝二さんの言葉を私たちがもひきついで行動していきたいと思いました。



**ありがとう長崎**  
 大阪府 福徳涼風・安早子記者  
 この数日間の人々とのふれあいを通して、親子で貴重な体験をすることができました。被爆地である長崎の人々のやさしさは、「戦争をくり返してはならない」と訴える長崎市のメッセージに重なります。短い間でしたがありがとうございました。



**「つながり」を深める手法**  
 大分県 佐藤沙綾・新太郎記者  
 有意義な4日間であった。娘の思い出(発見)を紹介する。「バスみたいな路面電車」「お父さんの英語」「合唱団の歌声」「高校生の取材風景がTVに出た」等々。父親もわかりである。  
 難しい昨今の子育て。この輪も長崎から広がる。



**初めての新聞づくり**  
 香川県 橋本夏姫・由紀子記者  
 しゅぎいをして、へいわのことをべんきようすることができました。はじめてしゅぎいをして、きんちようしたいけど、いろんなおはなしをきいてすぐたのしかつたです。また、はじめてききをかいて、すこしむずかしかつたです。しんぶんをつくることはとてもたのしかつたです。



**山本親子が寸劇披露**  
 今年も新しいボランティア仲間が加わりました。長崎市在住の山本幸子さんと理子さん親子です。2人はシーハットとおおむらのミュージカル劇団「夢桜」の所属で、オリエンテーション時におやこ記者事業の説明を寸劇で披露してくれました。  
 ♡平和だからこそ、出逢いに感謝です。 山本幸子  
 ♡親子記者の方々と友達になれてよかったです。 山本理子



**Peace from Nagasaki!!!**  
 沖縄県 本田陽向子・静江記者  
 今回、平和について詳しく学ぶ事ができました。  
 田上市長が、たくさんの方が核をいらないと手をあげる。と早めにハッピーエンドになると言っていた事が印象に残っています。  
 沖縄でも平和の夕ネをまきたいと思います。



**学生ボランティア大活躍!**  
 今年もボランティアスタッフとして、長崎県立大学シーボルト校国際情報学部情報メディア学科の学生11名に参加していただきました。  
 (コメントは写真右上から左へ)  
 ♡平和な世界について考えた4日間でした。 辻井健  
 ♡平和に向けての一步を踏み出せたと。 藤本明宏  
 ♡初めて平和について考えさせられました。 坂下翔子  
 ♡親子記者と一緒に取材で自分も勉強になりました。 杉原由紀  
 ♡親子記者の経験が平和につながってほしいと思った。 森本竜也  
 ♡貴重な経験が出来た。平和を継承していきたいです。 道下ゆかり  
 ♡核廃絶を祝う祭りを早く早く来て欲しい。 村田あゆみ  
 ♡長崎の事を改めて知る良い経験になりました。 田尻由佳  
 ♡原爆について再び学ぶことができた。いい経験となった。 中村雅英  
 ♡とても良い経験になりました。取材楽しかったです。 西山和希  
 ♡長崎の地で、良い体験ができたと思います。 上野綾香